国営明石海峡公園 神戸地区
あいな里山公園

みごろの花&生きもの 散策コースマップ 2024

6月中旬～7月中旬

季節のおすすめ散策コース♪（ゆっくり歩いて1時間）
おてがるコース♪（ゆっくり歩いて30分）

いきもの

モリアオガエル（アオガエル科）
梅雨の時期に、木の上に泡状の卵を産みます。卵のついている木をよーく見ると親カエルがいるかもしれません。かなり大型のアオガエルです。

ミヤマカラスアゲハ（アゲハチョウ科）
光を反射して青く光ってみえる、里山を代表する美しいアゲハチョウです。

ホトトギス(ホトトギス科)
鳴き声がユニークで、昔から「東京特許許可局」とか「テッペンカケタカ」などと表現されます。田植えの頃に鳴きはじめます。

ネムノキ(マメ科)
夜になると、葉を閉じて眠ることから、この名前がついたといわれています。

ヤブカンゾウ（ススキノキ科）
花を観賞するだけでなく、若葉やつほみは食用になります。

リョウブ(リョウブ科)
昔、食料の少ない時に、若葉を摘んでリョウブ飯にしたとか。

里山美林散策路 ～緑陰の散策～
早苗の棚田景観を、木陰より見下ろしながら散策ができます。

ノカンゾウ（ススキノキ科）
ヤブカンゾウと同じく、若葉やつほみは食用になります。

ヤブレガサモドキ（キク科）
葉っぱが破れた傘のように見えることからこの名前がつきました。小さな花がたくさん集まって咲きます。

ムラサキシキブ（シソ科）
果実が美しい紫色に熟すことからこの名前がありますが、花は淡い桃色です。

ヤマモモ(実)(ヤマモモ科)
果実は食用に、葉はお茶に、樹皮は染料に、余すところなく使える あいなのシンボル樹です。

※ヤマモモの実はイベントにお申込みのお客様に摘んでいただきます。絶対に採らないでください。

オカトラノオ(サクラソウ科)
小さな白い花が集まってできた花穂が、トラの尾っぽを思わせる、かわいらしい花。

クマノミズキ(ミズキ科)
花の後には、紅葉や花柄の紅い色彩も楽しめる木です。

ウツボグサ(シソ科)
ウツボとは、弓矢を入れておく道具のこと。真夏に花穂が枯れることから、夏枯草とも。西洋でもセルフヒールというハーブとして活用されています。

ホタルブクロ(キキョウ科)
ホタルが飛ぶころに咲きます。昔は子どもの遊びで、ホタルをこの花の中に入れて灯りを楽しんだそうな。

木見川散策路 ～緑陰の散策～
樹木の葉が夏の日差しをかわし、心地の良い涼しげな散策ができます。